

千葉支部 2021 年度第 1 回資格更新研修会 報告

2021 年 6 月 27 日(日)13 時~16 時 Zoom 配信によるオンライン研修会

テーマ「発達支援におけるICT活用について」

講師 加藤 悦子 先生 (植草学園大学)

竹田 和輝 先生 (北陸先端科学技術大学院大学)

昨年度に引き続き、今年度第 1 回の研修会も Zoom によるオンライン研修会として実施いたしました。研修会当日は、講師の加藤先生、竹田先生がお話し下さった植草学園大学と、配信会場の千葉大学西千葉キャンパスを結び研修を進めました。今回もオンライン研修会にともなう事前準備や参加者数の制約ことを考慮し、千葉支部会員向けとさせていただきますましたが、オンライン 3 回目ということで、大きな問題もなく準備から当日の運営まで滞りなく進められ、研修を終えることができました。参加者は千葉支部会員 56 名でした。

今回の研修テーマについては、役員会の中で関心の高い内容として、ICT を発達支援の場でいかに活用していくかということに絞られました。そこで、植草学園大学で関連の講座を新設し、中心となって進めてこられた加藤悦子先生を是非、講師にとの声があがり、今回の研修会の開催に至りました。研修会当日は、ICT をめぐる現状や今後の展望とともに、植草学園大学の加藤先生のゼミの卒業生で、現在、北陸先端科学技術大学院大学に進学されている竹田和輝先生にもご協力をいただき、様々なアプリの紹介などもしていただき、短時間にたくさんの情報をいただくことができました。

研修会の前半は、最近の ICT をめぐる様々な書籍や報道を採り上げながら、加速度的に学校教育に導入が図られ、そのことで期待される効果とともに、子どもの育ち全体を俯瞰しながら、使いこなしていくためには、そのための環境が整備されていく必要があること、目先の便利さだけにとらわれず、子どもたちの学習に促進的に機能するばかりではないことを踏まえて使い方を考えていくことが必要なようです。例えば、読解力の伸長に対して抑制的に働いてしまう可能性、手書きをする方が長期記憶に残りやすい可能性、さらには、SNS 使用の拡大によって、同質の意見ばかりが選択され、異質な考えが入りにくくなる可能性、そして学校教育や家庭教育における格差への対応など、大きな課題が紹介されました。一方で、テクノロジーは進歩し続けており、私たちは新たな知識を吸収しつつ、よりメタ的な、そして長期的な視点で様々な専門領域と協働し、あり方を模索しなければならないことを突き付けられた思いでした。

研修会後半は、例えば、漢字学習において、「とめ」や「はね」などに対して許容度の広い採点が行われることで子どもの意欲をそがずに文字学習が継続しやすいものなど、発達障害のある子どもたちの支援に活用できるアプリ、代替コミュニケーションとして日常的に使いやすいアプリ、作業学習の頒布会などの販売において支援学校の生徒に活用しやすいアプリ、楽しみながら自分の絵本を作ることのできるアプリなど、療育や特別支援教育の場ですぐに活用できそうなアイデアを豊富にご紹介いただきました。

是非、いつか対面という形態で、実際に使ってみながら、もっとじっくり学びたい内容ばかりで、予定の時間があっという間に過ぎてしまいました。 (堀 彰人)